

一関工業高等専門学校					一般科目					開講年度				平成25年度 (2013年度)													
学科到達目標																			担当教員	履修上の区分							
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																					
						1年				2年				3年				4年				5年					
						前		後		前		後		前		後		前			後		前		後		
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4				
一般	必修	日本語表現法	0010	履修単位	1										2									未定			
一般	必修	文学	0011	履修単位	1											2								未定			
一般	必修	体育	0012	履修単位	2										2	2								未定			
一般	必修	英語演習Ⅰ	0013	学修単位	2										2									未定			
一般	必修	第二外国語Ⅰ（ドイツ語Ⅰ）	0014	学修単位	2											2								未定			
一般	必修	第二外国語Ⅰ（中国語Ⅰ）	0015	学修単位	2											2								未定			
一般	必修	英語演習Ⅱ	0001	学修単位	2																2			畠山 喜彦			
一般	必修	哲学	0002	学修単位	2													2						千田 芳樹			
一般	必修	歴史学	0003	学修単位	2													2						松浦 千春			
一般	必修	法学	0004	学修単位	2													2						鈴木 美南			
一般	必修	経済学	0005	学修単位	2													2						平林 一隆			
一般	選択	第二外国語Ⅱ（ドイツ語Ⅱ）（M・S科用）	0006	履修単位	1													2						遠藤 健樹			
一般	選択	第二外国語Ⅱ（中国語Ⅱ）	0007	履修単位	1													2						陳 茜			
一般	選択	課題研究Ⅰ（フランス語）	0008	履修単位	1															集中講義				矢野 禎子			
一般	選択	第二外国語Ⅱ（ドイツ語Ⅱ）（E・C科用）	0009	履修単位	1													2						平林 一隆			

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	英語演習Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科目		対象学年	5			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	Exploring SciTech English (開隆堂出版)						
担当教員	畠山 喜彦						
到達目標							
① 技術者として必要とされる理系の英語語彙を習得できる。 ② 技術者として必要とされる理系の英語文書を読解できる。 【教育目標】 A 【学習到達目標】 A-1							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
① 技術者として必要とされる理系の英語語彙を習得できる。	技術者として必要とされる理系の英語語彙を習得できる。		技術者として必要とされる理系の英語語彙をある程度習得できる。		技術者として必要とされる理系の英語語彙を習得できない。		
② 技術者として必要とされる理系の英語文書を読解できる。	技術者として必要とされる理系の英語文書を読解できる。		技術者として必要とされる理系の英語文書をある程度読解できる。		技術者として必要とされる理系の英語文書を読解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	理系英語教材を読解することを通して、理系の文書を読む経験を積み、理系の英語表現及び語彙を学習し、技術者として必要な英語力を獲得することを目指す。						
授業の進め方・方法	理系の語彙確認、理系の文書読解を学生が中心になって行う形で授業を進める。予習を前提に読解を進め、演習を通して知識の定着を目指す。						
注意点	予習を前提とした授業を行う。予習、復習が必要不可欠な授業である。また、授業中は、辞書、ノートを準備し、様々な演習に積極的に取り組む事。授業が終了したなら、その日の内に学習事項の復習（特に語彙に関して）をしておくこと。 【事前指導】 予習として、教科書の進出語句の意味を調べ、本文の意味確認、問題演習をして来ること。 【評価方法・評価基準】 試験結果（100%）で評価する。理系の英語語彙と理系英語文書の理解度を評価する。以上の評価に加えて、課題を提出すること。課題が不十分な場合は不合格とする。総合成績 60 点以上を単位習得とする。詳細は第一回目の講義で告知する。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Unit 1 Fly your Plane		飛行機の原理を説明した文を理解できる。		
		2週	Unit 2 The History of QR Code (1)		QRコードを説明した文を理解できる。		
		3週	The History of QR Code (2)		QRコードを説明した文を理解できる。		
		4週	Unit 3 Codes and Ciphers (1)		暗号の理論と解読方法の説明が理解できる。		
		5週	Codes and Ciphers (2)		暗号の理論と解読方法の説明が理解できる。		
		6週	Unit 4 Can Robots Be Good Companions? (1)		ロボットの進化に関する説明が理解できる。		
		7週	Can Robots Be Good Companions? (2)		ロボットの進化に関する説明が理解できる。		
		8週	Can Robots Be Good Companions?(3)		ロボットの進化に関する説明が理解できる。		
	4thQ	9週	Unit 5 Laterality:Left - handed versusu Right-handed (1)		右利きと左利きに関する説明が理解できる。		
		10週	Laterality:Left - handed versusu Right-handed (2)		右利きと左利きに関する説明が理解できる。		
		11週	Unit 6 The ChallengerDisaster: Why Did It Happen? (1)		経営者の論理と技術者倫理に関する説明が理解できる。		
		12週	The ChallengerDisaster: Why Did It Happen? (2)		経営者の論理と技術者倫理に関する説明が理解できる。		
		13週	Unit 7 Lucky Number 113 (1)		新元素「二ホニウム」に関する説明が理解できる。		
		14週	Lucky Number 113 (2)		新元素「二ホニウム」に関する説明が理解できる。		
		15週	期末試験				
		16週	試験の解説及びまとめ				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	哲学		
科目基礎情報								
科目番号	0002			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科目			対象学年	5			
開設期	前期			週時間数	2			
教科書/教材	教科書：『現代哲学』、著者：門脇俊介、発行所：産業図書							
担当教員	千田 芳樹							
到達目標								
【教育目標】B 【学習・教育到達目標】B-1、B-2 ①現代哲学における知識論の枠組み（ア・プリオリおよびア・ポステリオリな知識、基礎づけ主義、整合説等）を理解できる。 ②現代哲学における言語論的転回の意義を理解できる。 ③現代哲学におけるウィトゲンシュタインとオースティンの哲学の意義を理解できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
	現代哲学における知識論の枠組みを理解し、その背景にある様々な問題点を説明することができる。			現代哲学における知識論の枠組みを理解できる。		現代哲学における知識論の枠組みを理解できない。		
	現代哲学における言語論的転回の意義を理解し、その背景にある様々な問題点を説明することができる。			現代哲学における言語論的転回の意義を理解できる。		現代哲学における言語論的転回の意義を理解できない。		
	現代哲学におけるウィトゲンシュタインとオースティンの哲学の意義を理解し、その内容を説明できる。			現代哲学におけるウィトゲンシュタインとオースティンの哲学の意義を理解できる。		現代哲学におけるウィトゲンシュタインとオースティンの哲学の意義を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	現代哲学において議論されている知識論や言語論等を通じて、哲学的問題を理解し、かつ物事を深く思索する精神を涵養する。							
授業の進め方・方法	講義形式で授業を進める。 時に問題を与え、小グループごとに討議の時間を設け、思索の手がかりとする。							
注意点	【事前学習】授業前に教科書の該当箇所に目を通し、授業中にはノートをとること。 【評価方法・評価基準】試験結果80%、学修レポート20%で評価する。詳細は一回目の授業で告知する。現代西洋哲学の主要の理解の程度を評価する。また本科目は学修単位であるため、自学自習して学修レポートを提出すること。学修レポートの未提出が4分の1を超える場合は不合格とする。							
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	現代哲学への導入			現代哲学の背景を理解できる。		
		2週	知識論（1）			知識とは何か、という哲学的問題の意義を理解できる。		
		3週	知識論（2）			ア・プリオリ、ア・ポステリオリな知識の違いを理解できる。		
		4週	知識論（3）			知識論をめぐる議論の大枠を理解できる。		
		5週	知識論（4）			知識論の自然主義を理解できる。		
		6週	言語論（1）			現代哲学の言語論的転回を理解できる。		
		7週	言語論（2）			前期ウィトゲンシュタインの哲学の概要を理解できる（1）		
	2ndQ	8週	言語論（3）			前期ウィトゲンシュタインの哲学の概要を理解できる（2）		
		9週	言語論（4）			論理実証主義者の意味の検証理論を理解できる。		
		10週	言語論（5）			後期ウィトゲンシュタインの哲学の概要を理解できる（1）		
		11週	言語論（6）			後期ウィトゲンシュタインの哲学の概要を理解できる（2）		
		12週	言語論（7）			オースティンの言語行為論の意義を理解できる（1）。		
		13週	言語論（8）			オースティンの言語行為論の意義を理解できる（2）。		
		14週	言語論（9）			クワインの言語哲学の概要を理解できる。		
		15週	まとめ			まとめ		
		16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	期末試験	学修レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ			合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	0	100
知識論	30	10	0	0	0	0	0	40
言語論	50	10	0	0	0	0	0	60

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	歴史学	
科目基礎情報							
科目番号	0003			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	プリント、『岩波テキストボックスα歴史学入門』（岩波書店）						
担当教員	松浦 千春						
到達目標							
①歴史学の学的視点と方法論とを学習する。 ②史料・資料からどのように「歴史」が導かれるのかを学び、中国史の諸相を具体的な資料から考える。 【教育目標】B 【学習・教育到達目標】(B-1), (B-2) 【キーワード】歴史学、資料論、時代区分、仏教、文芸資料							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	歴史学の学的視点と方法論とを中国史の具体像を通して学習する。「歴史」が史料・資料からどのように考察されるのかを理解し、また中国魏晉南北朝隋唐の歴史的な具体像を資料から考えることを学ぶ。						
授業の進め方・方法	講義は主にプリントによって行う。教科書は実質的にはサブテキストであり、予習として関連する部分を読了しておくことが望まれる。また自習レポートとして教科書概要の提出を求める。						
注意点	歴史学の方法論を踏まえた考察と、その具体的な成果としての中国史の理解の程度を評価する。 【事前学習】 プリントの資料を前もって読んでおくこと。またテキストを指示に従って熟読、場合によっては要約した上で講義に臨む必要がある。 【評価方法・基準】 試験結果（100%）で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。自学自習による自己学習レポートを提出すること。自己学習レポートの未提出が、4分の1を越える場合は評価を60点未満とする。総合成績60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	はじめに 授業の構成と学び方		授業の概要と学習方法が理解できる		
		2週	史書と史料・資料 中国史における正史・史書・史料・資料		中国の歴代正史について理解できる		
		3週	史書と史料・資料 中国史における正史・史書・史料・資料		中国の歴代正史について理解できる		
		4週	時代区分と歴史 歴史学と時代区分と中国史		時代区分の意味について理解できる		
		5週	時代区分と歴史 歴史学と時代区分と中国史		時代区分の意味について理解できる		
		6週	時代区分と歴史 歴史学と時代区分と中国史		時代区分の意味について理解できる		
		7週	東アジア世界の形成		冊封体制による国際関係を理解できる		
		8週	東アジア世界の形成		冊封体制による国際関係を理解できる		
	2ndQ	9週	仏教文化の国際性と地域性 仏教と中国の社会と国家		仏教のグローバルな働きと地域的な特性について認識し、中国仏教を考えることができる		
		10週	仏教文化の国際性と地域性 仏教と中国の社会と国家		仏教のグローバルな働きと地域的な特性について認識し、中国仏教を考えることができる		
		11週	仏教文化の国際性と地域性 仏教と中国の社会と国家		仏教のグローバルな働きと地域的な特性について認識し、中国仏教を考えることができる		
		12週	社会・文化史料の可能性 唐詩と唐代社会		唐詩の中の記述を分析し、歴史事象との関連において考察することができる		
		13週	社会・文化史料の可能性 唐詩と唐代社会		唐詩の中の記述を分析し、歴史事象との関連において考察することができる		
		14週	社会・文化史料の可能性 唐詩と唐代社会		唐詩の中の記述を分析し、歴史事象との関連において考察することができる		
		15週	期末試験				
		16週	試験の確認				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	法学	
科目基礎情報							
科目番号	0004			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	早川吉尚「法学入門」有斐閣ストゥディア（２０１６）						
担当教員	鈴木 美南						
到達目標							
法学は、社会科学の一分野である。工学を専攻するうえで、法学を学ぶことに疑問を覚える学生もいるかもしれない。しかし、工学とは、数学と自然科学を基礎とし、ときには人文科学・社会科学の知見を用いて、公共の安全、健康、福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問である。したがって、法学を学ぶことは、社会科学の知見を広げることを意味し、工学の修得を助けることにつながる。よって、本講義の到達目標は、工学を専攻する学生に必要な十分な程度の法学の習得となる。							
【教育目標】B 【学習・教育到達目標】B－１・B－２							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	法学は、社会科学の一分野である。工学を専攻するうえで、法学を学ぶことに疑問を覚える学生もいるかもしれない。しかし、工学とは、数学と自然科学を基礎とし、ときには人文科学・社会科学の知見を用いて、公共の安全、健康、福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問である。したがって、法学を学ぶことは、社会科学の知見を広げることを意味し、工学の修得を助けることにつながる。						
授業の進め方・方法	教科書に基づきながら、授業を展開する。授業の進行は、ディスカッションなど、学生に意見を求める場合もある。						
注意点	本講義は、授業で学生に意見を求める場合があるため、その際は積極的な参加を求める。 【事前学習】配布資料を読んでおくこと。 【評価方法・評価基準】期末試験（60%）、課題（40%）で評価する。総合成績60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	法学とはなにか（導入）			法律の概要を大まかに掴む	
		2週	法律はなぜ必要なのか（教科書第3章）			社会にあるルールをなぜ私たちは遵守する必要があるのかを学ぶ	
		3週	法律は全世界同じなのか（教科書第8章）			国際社会でも同様に遵守することが必要とされている法律。日本以外の国での扱われ方を知る。	
		4週	法律は全部書かれているのか（教科書第9章）			成文法と慣習法があり、すべての法律が明記されていないことを知る。	
		5週	法律の解釈とは（教科書第4章）			裁判例などを扱い、法律の解釈とはなにかについて学ぶ。	
		6週	論理的思考とは（レジュメ）			法学を習得するうえで必要な論理的思考を大まかに修得する。	
		7週	憲法（レジュメ）			工学を専攻するうえで関連する法律について学ぶ。	
		8週	民法①（レジュメ）			工学を専攻するうえで関連する法律について学ぶ。	
	2ndQ	9週	民法②（レジュメ）			工学を専攻するうえで関連する法律について学ぶ。	
		10週	刑法（レジュメ）			工学を専攻するうえで関連する法律について学ぶ。	
		11週	身近な問題を取り扱う①－1			これまでに習った事柄をもとに、応用する	
		12週	身近な問題を取り扱う①－2			これまでに習った事柄をもとに、応用する	
		13週	身近な問題を取り扱う②－1			これまでに習った事柄をもとに、応用する	
		14週	身近な問題を取り扱う②－2			これまでに習った事柄をもとに、応用する	
		15週	期末試験				
		16週	達成度の点検				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題					合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
総合評価	60	40	0	0	0	0	100
	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	経済学	
科目基礎情報							
科目番号	0005			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は使用しない。適宜資料などを配布する。						
担当教員	平林 一隆						
到達目標							
初歩的な経済学に関する知識を取得する。基本的な経済学説を理解する。人類社会における経済成長の意味を広く理解する。 【教育目標】B・F 【学習・教育到達目標】B-1・B-2・F-1							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	複雑な経済現象の運動原理を学び、経済関係の本質を理解する。また、経済発展の国際間の相違を理解し、経済成長や豊かさについての歴史や文化による価値観の違いも理解する。 同時に社会科学的な減少のとらえ方考え方を学ぶことで、自然科学との相違点および共通点を考え、科学全般に通じる科学的思考の方法論を理解する。						
授業の進め方・方法	教科書は使用しない。各自、講義ノートをしっかり作成すること。 関連事項について、参考文献を各自参照するように心がけること。参考文献は授業で提示する。						
注意点	【事前学習】 事前に参考文献がどのような項目を扱っているか確認すること。状況により事前に調べておくことを指示する。 【評価方法・評価基準】 試験結果（100%）で評価する。詳細は第1回授業で告知する。初歩的な経済学に関する知識、基本的な経済学説の理解、人類社会における経済成長の意味を広く理解する程度を評価する。 自学自習をしてレポートを提出すること。自己学習レポートの未提出が、4分の1を超える場合は不合格点とする。 総合成績60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	経済学の対象と方法		経済活動の定義を理解できる。		
		2週	経済史と経済学説		社会科学および経済学の学問上の特質を理解できる。		
		3週	資本主義以前の経済史		経済制度の歴史の概観や、その自然的・文化的背景が理解できる。		
		4週	資本主義の成立と特徴		資本主義の成立条件と、他の経済制度と異なる特徴が理解できる。		
		5週	アダム＝スミスの資本主義観		アダム＝スミスの資本主義観を理解できる。		
		6週	リカード・マルサス論争と資本主義における経済成長		三大階級への分配と経済成長に関する経済学的観点の相違を理解できる。		
		7週	資本主義における矛盾の拡大とマルクスの資本主義観		資本主義の発展と矛盾について理解できる。		
	8週	資本主義における矛盾の拡大とマルクスの資本主義観		資本主義における再生産構造と矛盾拡大の関係について理解できる。			
	2ndQ	9週	限界革命と新たな市場理論		効用価値説および限界学派の基礎理論を理解できる。		
		10週	限界革命と新たな市場理論		効用価値説および限界学派の基礎理論を理解できる。		
		11週	資本主義発達の国際間での相違 世界大戦と資本主義における帝国主義		独占資本の市場への影響を理解できる。 帝国主義政策とその背景について理解できる。		
		12週	世界恐慌とケインズ政策		世界恐慌が経済学説に与えた影響と、ケインズ政策の理論的根拠を理解できる。		
		13週	資本主義におけるイノベーションとシュンペーターの資本主義観		シュンペーターの産業循環に関する見地と資本主義観を理解できる。		
		14週	マネタリストの資本主義観 資本主義の現代的課題		マネタリストの資本主義観を理解できる 資本主義の現代的課題を理解できる。		
		15週	期末試験				
16週		試験の解説、内容のまとめ、補足					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的理解	50	0	0	0	0	0	50
応用的思考	30	0	0	0	0	0	30
総合的思考	20	0	0	0	0	0	20

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度（2017年度）		授業科目	第二外国語Ⅱ（ドイツ語Ⅱ）（M・S科用）	
科目基礎情報							
科目番号	0006			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	上野・本田・及川『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』、白水社、2015年。						
担当教員	遠藤 健樹						
到達目標							
1. ドイツ語の初級文法を習得し、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解、用いることができる。（CEFR A1） 2. ごく基本的な個人的情報、仕事、直接的関係がある領域に関する若干複雑な表現が理解でき、用いることができる。（CEFR A2） Cf. CEFR：ヨーロッパ言語共通参照枠							
【教育目標】B 【学習・教育到達目標】B-2							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	CEFR A2レベルの文章を理解し、自分でも発信することができる。			CEFR A1レベルの文章を完全に理解し、自分でも発信することができる。		CEFR A1に未達の場合。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	ドイツ語Iでの学習成果をもとに、さらにドイツ語の初級文法の学習を進めていく（CEFR A1に該当）。基礎的な文法学習が終わった段階で、日常生活、仕事、関連分野にかかわる長文の読解能力、発信能力の獲得を目指す（CEFR A2に該当）。						
授業の進め方・方法	第9回の授業までは、ドイツ語Iの授業で使用した教科書を引き続き使用する。第10回から第13回の授業では、プリントその他の教材を使用する。第14回の授業では、達成度の確認と復習のためにプレテストを行う。						
注意点	【事前学習】 自宅学習のために複数回の課題を課す。 【評価方法】 期末試験（70%）、自宅学習課題（30%）で評価。なお、特段の理由がなく課題提出が遅れた場合は減点対象となる。総合成績60点以上で単位修得。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ドイツ語Iの復習		ドイツ語Iでの学習内容を再確認し、身につけられる。		
		2週	話法の助動詞		話法の助動詞の使い方が理解できる。		
		3週	未来形		未来形の使い方が理解できる。		
		4週	zu不定詞		zu不定詞の使い方が理解できる。		
		5週	再帰代名詞・再帰動詞		再帰代名詞・再帰動詞の使い方が理解できる。		
		6週	現在完了形		現在完了形の使い方が理解できる。		
		7週	非人称表現		非人称表現の使い方が理解できる。		
		8週	受動態		受動態の使い方が理解できる。		
	2ndQ	9週	比較表現		比較表現の使い方が理解できる。		
		10週	長文読解（関係代名詞）		関係代名詞の使い方が理解でき、それを用いた文章を読み解ける。		
		11週	長文読解（関係副詞）		関係副詞の使い方が理解でき、それを用いた文章を読み解ける。		
		12週	長文読解（接続法I）		接続法I式の使い方が理解でき、それを用いた文章を読み解ける。		
		13週	長文読解（接続法II）		接続法II式の使い方が理解でき、それを用いた文章を読み解ける。		
		14週	プレテスト		これまで学習した文法事項を全て理解できる。		
		15週	期末試験				
		16週	達成度の点検		ドイツ語IIで学習した文法事項の全てを使いこなすことができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	期末試験		課題			合計	
総合評価割合	70		30		0	100	
総合評価割合	70		30		0	100	

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	第二外国語Ⅱ (中国語Ⅱ)	
科目基礎情報							
科目番号	0007			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	本間 史 ・ 孟 広学、「中国語ポイント42」(白水社)						
担当教員	陳 茜						
到達目標							
授業の目標するのは次の3つ、すなわち 1. 学生に中国語の正しい発音と正確な漢字の書き方を身に付けてもらうこと。 2. 初歩的な中国語文法を習い、練習を通じて、簡単な中国語会話ができるような基礎力を養うこと。 3. 学生に中国文化や習慣や中国と日本の相違点などを理解し、中国を知ってもらうこと。 中国語の発音をしっかりと習得し、基本文法を修得する、国際性を身に付ける、異文化を知る、中国語でコミュニケーションできる楽しさを感じるよう目指す。 【教育目標】A・B							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義は引き続き中国の文化に理解と関心を深めることを通して中国語運用能力の向上を目指すとともに国際的に活躍する技術者としての基礎的な中国語能力を身につけることを目標とする。具体的に中国語の発音を練習し、中国語の基礎的な文法を習得できるよう目標とする。						
授業の進め方・方法	以上の目標達成のため、引き続き中国語の発音(ピンイン)を自主的に正しく発音できるようにするために毎回の授業中でピンインの練習は不可欠である。中国語の基本文法と基本文型を学びながら中国語会話や日本語を中国語に訳などができるようにする。講義と演習形式。コミュニケーションの能力を身につけるため、パタン練習、ヒアリング、会話などを総合的に行う。						
注意点	【事前学習】毎回到教科書の内容を復習することと予習しておくこと。また、この授業では辞書が必要なので、各自に準備してください。 【評価方法・評価基準】試験結果(40%)で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。学習内容の理解に関して自己レポートを提出すること(30%)及び出席率等(30%)も評価の対象になる。総合で成績60点以上を単位修得とする。初級中国語授業との一貫性、連続性に留意ください。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	前半の復習(1)		ピンインの練習問題		
		2週	前半の復習(2)		文法の練習問題		
		3週	第7課 助動詞の表現		中国語の助動詞の使い方が理解できる		
		4週	第8課 可能助動詞の表現		中国語の可能助動詞の使い方が理解できる		
		5週	第9課 進行と持続の表現		中国語の進行と持続の使い方が理解できる		
		6週	中国語の長文を読むの練習		中国語の文章をすらすら読めるように		
		7週	第10課 結果補語の表現		中国語の結果補語の使い方が理解できる		
		8週	自己紹介の中国語文章を書く		中国語の文章をすらすら書けるように		
	2ndQ	9週	第11課 方向補語の表現		中国語の方向補語の使い方が理解できる		
		10週	中国語文章の入力の練習		ピンインで中国語の入力が出来る		
		11週	第12課 可能補語の表現		中国語の可能補語の使い方が理解できる		
		12週	自己紹介の発表		中国語で自己紹介ができる		
		13週	学習内容の確認				
		14週	学習内容のまとめ				
		15週	テスト				
		16週	テストの解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	30	0	30	0	0	100
基礎的能力	40	30	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	課題研究Ⅰ（フランス語）
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	『新装 カフェ・フランセ』朝日出版社／仏和辞書（初心者用なら何でも可。初回到指示する）				
担当教員	矢野 禎子				
到達目標					
フランス語で簡単なコミュニケーション（挨拶、自己紹介、買い物など）が取れるようになることを目標とする。 目標到達にあたり ①フランスの基礎文法を身につけ、使いこなすことができる ②フランス語の発音を身につけ、相手に通じるよう発音できる ③すでに知っている表現についてはフランス語で聞き取ることができるようにする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	教科書をもとに発音、基礎文法を学習する。 学習した内容を教室内で行う練習問題やロールプレイングでアウトプットし、より実践的に身に着ける。				
授業の進め方・方法	自宅で教科書や配布プリントの予習を必ず行い、内容を把握・理解することに努めること（予習の範囲は授業ごとに指示する）。 授業中は各自の予習内容をもとに、毎回質問を受け付けることから始める。 学習し、理解した内容を練習問題やロールプレイングを行いより実践的な形で定着させる。				
注意点	参加型、実践型の授業を行う時間を確保するため、必ず予習をし、復習も行うようにする。 教材に付属している音源やその他メディアを活用し、聞き取りと発音をしっかりと身に着ける。 授業へ積極的に参加（質問、アクティビティ）をする。 【事前学習】 教科書、プリントの指示された部分を予習し、文法規則などを理解する。教科書内の単語を事前に調べておく。 自身での予習では解らなかったことを、疑問に思ったことは書きとめ、次回の授業で質問をする。 【評価方法・評価基準】 期末試験（60％）、授業への参加（30％）、出席（10％）で評価する。総合得点60点以上で単位取得とする。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 教室内で使うフランス語の表現の学習	教室内で使うフランス語の表現が理解でき、使用することができる	
		2週	フランス語の発音	フランス語の発音の基本的な規則を理解し、発音できる	
		3週	自己紹介	自分の名前が言え、相手にたずねることができる 挨拶ができる	
		4週	フランス語のアルファベと0～20の数字	フランス語のアルファベ、数字を聞き取れ、言うことができる	
		5週	職業と住まいを言う	職業と住まいを表現する動詞や語彙を聞き取れ、言うことができる 相手に尋ねることができる	
		6週	フランス語のアルファベと発音の復習と21～30の数字	フランス語のアルファベや発音をより理解し、使いこなせる 数字を聞き取れ、言うことができる	

		7週	国籍、言語と否定文	性数一致や否定文のつくり方を理解し、作る（言う）ことができる
		8週	お店で注文する、30～69の数字	店で注文や買い物に必要な簡単な表現を覚え、使うことができる。金額を聞き取ることができる。
	4thQ	9週	綴りを言う	フランス語のアルファベをつかい、綴りを言ったりたずねたりできる
		10週	～を持っている、（兄弟などが）いる	動詞avoirの活用ができ、この動詞を使った表現を理解し言うことができる
		11週	身の回りのものを表す	身の回りのものについて表現したり、たずねたりできる
		12週	自分以外の人を表す	自分や相手以外の人について説明できる
		13週	場所を表す1	場所をたずねたり、答えたりできる 関連する前置詞を理解し、使うことができる
		14週	場所を表す2	道案内を理解できる 道案内ができる
		15週	期末試験	
		16週	試験解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	期末試験	授業への参加度	出席	合計	
総合評価割合	60	30	10	100	
評価割合	60	30	10	100	

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	第二外国語Ⅱ (ドイツ語Ⅱ) (E・C科用)	
科目基礎情報							
科目番号	0009			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	上野・本田・及川『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』、白水社、2015年。						
担当教員	平林 一隆						
到達目標							
1. ドイツ語の初級文法を習得し、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解、用いることができる。 2. ドイツ語のまとまった内容の文章を読解し、その表現や内容について理解できる。 【教育目標】B 【学習・教育到達目標】B-2							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	ドイツ語Iでの学習成果をもとに、さらにドイツ語の初級文法の学習を進めていく。基礎的な文法学習が終わった段階で、まとまった内容のドイツ語文章を読解する。						
授業の進め方・方法	第9回の授業までは、ドイツ語Iの授業で使用した教科書を引き続き使用する。第10回から第14回の授業では、プリントその他の教材を使用する。						
注意点	【事前学習】各授業で取り扱う範囲についてテキストに目を通し、辞書などを利用してテキストの単語の意味を確かめておくこと。自宅学習のために複数回の課題を課す。 【評価方法】期末試験 (70%)、課題 (30%) で評価。なお、特段の理由がなく課題提出が遅れた場合は減点対象となる。総合成績60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ドイツ語Iの復習		ドイツ語Iでの学習内容を再確認し、身につけられる。		
		2週	話法の助動詞		話法の助動詞の使い方が理解できる。		
		3週	未来形		未来形の使い方が理解できる。		
		4週	zu不定詞		zu不定詞の使い方が理解できる。		
		5週	再帰代名詞・再帰動詞		再帰代名詞・再帰動詞の使い方が理解できる。		
		6週	現在完了形		現在完了形の使い方が理解できる。		
		7週	非人称表現		非人称表現の使い方が理解できる。		
		8週	受動態		受動態の使い方が理解できる。		
	2ndQ	9週	比較表現		比較表現の使い方が理解できる。		
		10週	長文読解		まとまった内容のドイツ語文章を読解し、表現・内容について理解できる。		
		11週	長文読解		まとまった内容のドイツ語文章を読解し、表現・内容について理解できる。		
		12週	長文読解		まとまった内容のドイツ語文章を読解し、表現・内容について理解できる。		
		13週	長文読解		まとまった内容のドイツ語文章を読解し、表現・内容について理解できる。		
		14週	長文読解・まとめ		これまで学習した文法事項のまとめを理解できる。		
		15週	期末試験				
		16週	達成度の点検		ドイツ語IIで学習した文法事項を使いこなすことができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	期末試験		課題			合計	
総合評価割合	70		30		0	100	
総合評価割合	70		30		0	100	